

日本学術会議
健康・スポーツ科学分科会主催 公開シンポジウム

スポーツとは何か スポーツで”つなぐ/つながる/ひろがる”社会

開会挨拶

建石真公子(連携会員/法政大学)

第一部「スポーツで“つなぐ/つながる”社会を考える」

菊幸一(連携会員/国士舘大学)

中西純司(立命館大学)

水上博司(日本大学)

高松平藏(在ドイツジャーナリスト)

來田享子(連携会員/中京大学)

第二部「宇宙にひろがるスポーツ」

宮地元彦(連携会員/早稲田大学)

二川健(徳島大学)

萩生翔大(京都大学)

金岡恒治(早稲田大学)

総合討論

山口香(会員・筑波大学)

神崎素樹(連携会員/京都大学)

閉会挨拶

佐々木玲子(連携会員/慶應義塾大学)



- ・開催方法=対面とZoomウェビナー併用のハイブリッド開催
- ・日時=令和8(2026)年9月13日(日)13:00～17:00
- ・開催地=日本学術会議講堂
〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34
- ・対象=どなたでも参加いただけます
- ・定員=対面150名、オンライン300名
- ・参加登録=左のQRコードからご登録ください
- ・問い合わせ先=mariko.nakamura@jpnsport.go.jp

自治体の人手不足 ～その現状と対応方策～

人手不足が至る所で問題となっている。たとえば、バスの運転手が不足しているためにバスが減便される、公共事業等の仕事はたくさんあるのに建設・土木業界では人手不足のために仕事を請け負うことができない、人手不足で介護事業所の倒産が相次ぐ、といった事態がそれである。

しかし、これはまだまだ序の口に過ぎない。リクルートワークス研究所の報告書『未来予測2040労働供給制約社会がやってくる』(2023年)によれば、2024年の労働供給不足は25万1000人にとどまる。

今後、2027年頃から日本の労働供給は急激な減少局面に入る。そして、2030年には341万人(中国地方の就業者数とほぼ同じ規模)、2040年には1100万人(近畿地方の就業者数とほぼ同じ規模)の働き手が不足する。2040年には、労働供給不足率が24.1%に上ることとなるのである。これは要するに、「4人必要な仕事に3人しかいない」状況や、「週4日必要な介護サービスを週3日しか利用できなくなる」状況などが生じることを意味する。

こうした中、人材の奪い合いの様相が強まっている。その影響を最も強く受けているのが、自治体にほかならない。売り手市場で民間企業への就職・転職が容易になっていることもあり、自治体は、人材確保に大いに苦しんでいるのである。具体的には、①自己都合退職(普通退職者数)の増加と、②地方公務員志望者の減少の形で、その影響が表れている。

人手不足は、自治体の円滑な業務遂行にマイナスの影響を与える。その影響は住民に不利益をもたらす。各自治体は、その影響を少しでも緩和すべく、採用方法の工夫等を通じた人材確保に努めているが、状況の打開には至っていないように思われる。

以上のような現状を踏まえ、自治体の人手不足の実状とその影響を明らかにするとともに、その対応方策を探索することが本シンポジウムの目的である。

【開催日時】

令和8年9月13日(日)

午後1時30分～午後4時

【開催方法】

オンライン配信(Zoom)

【定員/参加費】

150名(先着順)/参加無料

【申込方法】

下記申込フォームから必要事項を入力

<https://x.gd/EjPV1>



【申込〆切日】

9月8日(火) ※定員になり次第〆切

【登壇者】(敬称略)

(挨拶)

原田 久(立教大学教授)

(報告者)

役重 眞喜子(岩手県立大学准教授)

「自治体における人手不足の実情とその影響」

田井 浩人(北海学園大学講師)

「採用および退職をめぐる状況と対応方策」

杉岡 秀紀(福知山公立大学准教授)

「民間人材の活用と自治体複業」

(討論者)

入江 容子(同志社大学教授)

(司会)

嶋田 暁文(九州大学教授)



「司法制度改革後の法学研究者養成の課題 —法科大学院を経た研究者との対話を踏まえて」

2026年 9/14 (月) 13:30-17:00

会場：日本学術会議講堂/オンライン併用（下記URL/Q Rコード参照）

〔次第〕※敬称略

- ✓ 一般参加可能
- ✓ 参加費無料
- ✓ 事前登録不要

13:30 開会の辞

川嶋四郎（総司会） 同志社大学教授（日本学術会議・会員）

13:40 司法制度改革と日本学術会議における研究者養成の報告等

山田八千子 中央大学教授（日本学術会議・会員）

「法学研究者養成をめぐる現在地と課題を考える
—日本学術会議の意思表出等を手がかりとして」

佐藤岩夫 東京大学名誉教授（日本学術会議・連携会員）

「2017年アンケート調査結果に見られた法学研究者養成
の期待と課題」

（休憩 14:20～14:30）

14:30 法科大学院を経た研究者との対話

報告の部（順不同。各20分）～16:10

山井聡也 中央大学助教

岩崎正 大阪公立大学教授

木村敦子 京都大学教授

高秀成 慶應義塾大学教授

白木敦士 早稲田大学准教授

質疑応答 ～16:40

16:40 閉会の辞

片山直也 慶應義塾大学名誉教授/武蔵野大学教授（日本学術会議・連携会員）



主催：日本学術会議
法学委員会・法学研究者養成分科会

▼QRコード



<https://us06web.zoom.us/j/88695567907?pwd=F74GvLg4FVNqalibgMqW8OHrnVxh2c.1&jst=2>

日本学術会議公開シンポジウム

先端バイオ技術と環境制御技術の 融合が拓く次世代フードイノベーション

主催：日本学術会議 農学委員会農業生産環境工学分科会、食料科学委員会・
農学委員会合同農業情報システム学分科会
共催：日本生物環境工学会、玉川大学学術研究所生物機能開発研究センター

植物工場や陸上養殖施設などの施設生産システムは、フードテックの中核を担う技術として期待されている。これらの施設では、ゲノム編集をはじめとする先端バイオ技術と、高度な環境制御技術を組み合わせることで、高機能性を備えた動植物を安定的に生産する新たなイノベーションが生まれる可能性がある。今回のシンポジウムでは、特に先端バイオ技術に焦点を当て、最新の研究成果をご紹介いただく。このようなバイオ技術で創出された新たな生物素材を、大量・安定生産へとつなげるには、光・温度・養水分・気流などの環境制御が不可欠となる。バイオ技術の特性を踏まえ、どのような制御が必要になるのか、また施設側がどこまで対応可能であるのかを議論する。本シンポジウムを通じて、技術革新がどのように新たな価値を生み、持続可能な食料供給システムの構築に貢献し得るのか、その方向性を共有して社会実装に向けた展望を探る場としたい。

日時：令和8（2026）年9月15日（火） 15:00 ～ 17:45
会場：玉川大学Marble（講堂）（東京都町田市玉川学園6-1-1）

一般参加OK
参加無料

次第

司会：福山 太郎（玉川大学学術研究所助教）

15:00 開会の挨拶 後藤英司（日本学術会議第二部会員、千葉大学大学院園芸学研究院特任教授）
15:05 開催趣旨 大橋(兼子) 敬子（日本学術会議連携会員、玉川大学農学部先端食農学科教授）

15:10 「閉鎖循環式陸上養殖と育種技術の融合が拓く次世代養殖」

大賀 浩史（玉川大学農学部講師）

15:40 「バイオ・ナノ・光学技術の融合による持続可能な次世代精密農業」

浦野 大輔（Temasek Life Sciences Laboratory Senior Principal Investigator）

16:10 「ゲノム編集技術による高機能トマトの開発、ラボから消費者に届くまで」

江面 浩（日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系特任教授）

16:50 パネルディスカッション

司会 大橋(兼子) 敬子（日本学術会議連携会員、玉川大学農学部先端食農学科教授）

パネリスト

大賀 浩史（玉川大学農学部講師）

浦野 大輔（Temasek Life Sciences Laboratory Senior Principal Investigator）

江面 浩（日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系特任教授）

高山 弘太郎（日本学術会議第二部会員、豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授、
愛媛大学大学院農学研究科教授）

彦坂 晶子（日本学術会議連携会員、千葉大学大学院園芸学研究院教授）

林 絵理（日本学術会議連携会員、特定非営利活動法人植物工場研究会理事長）

17:40 総括

荊木 康臣（日本学術会議連携会員、山口大学農学部、大学院創生科学研究科教授）

公開シンポジウム
「公共的価値を支える知としての「デザイン」の実践のために（仮）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会デザインをめぐる知の構築と社会的理解分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：土木学会、建築学会等関連学協会に依頼することを検討中
4. 日 時：令和8年（2026年）9月15日（火）15：00～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：検討中

8. 開催趣旨：

本分科会は学術会議 25 期 26 期に「デザイン」をテーマとして議論し、その結果を「デザインをめぐる知の構築と社会的理解に向けて― 公共的価値を支える多様な知と実践へ ―」と題した「報告」としてまとめ、2026 年 6 月 5 日に公開しました。

この報告では、主に以下を述べています。

「デザイン」という語は、今日、造形や意匠のみならず、制度、情報、サービス、地域運営、教育、政策形成など、幅広い領域で用いられている。その一方でその意味や役割は分野ごとに異なり、共通理解は必ずしも十分ではない。こうした概念のずれは、分野横断的な協働や、公共的価値の創出に向けた実践の障壁ともなっている。そのためデザインの社会的理解をひろげるためのアプローチとして、①歴史からみたデザイン概念の再認識と社会的理解の促進、②公共領域におけるデザインの質を支える制度的基盤の形成、③公共プロジェクトの制度・調達・評価の改善、④学術と実務をつなぐプラットフォームの確立、⑤教育と人材育成の強化、の 5 点を提示した。

この報告は、土木、建築分野の状況を想定した議論をもとにしていましたので、異なる分野からのデザインをめぐる議論も交えて、公共的価値を支えるデザインを実践するための広義の学術の未来を展望したいと思います。

9. 次 第 :

15:00 開会挨拶および趣旨説明

15:05 第一部

15:30 第二部

16:00 総合討論

16:55 閉会挨拶



公正なデジタル市場の形成に向けて

ー市場の構造、弱い立場の利用者保護、個人データ保護等に焦点を当てて

令和8(2026)年 9月17日 (木) 13:30-17:00

会場：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）

〔次第〕※敬称略

13:30 開会の辞

～13:40 川嶋四郎（司会）同志社大学教授

13:40 基調講演

～14:10 松本恒雄 一橋大学名誉教授
/独立行政法人国民生活センター顧問
「公正なデジタル市場と消費者・生活者」

14:10 公正なデジタル形成をめぐる諸課題

～14:30 林秀弥 名古屋大学教授
「情報環境法としての競争法
ーダークパターンと優越的地位の濫用規制」

～14:50 川和功子 同志社大学教授
「公正なデジタル市場とEU消費者法の動向」

～15:10 佐藤一郎 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報研究所教授
「個人情報保護法の改正ー最新の傾向：技術の視点から」

（休憩 15:10～15:20）

～15:35 長谷河亜希子 弘前大学教授
「デリバリー系労働プラットフォームにおける諸課題：
ゲーミフィケーション、アルゴリズム支配等の問題を中心に」

～15:50 平田貞代 芝浦工業大学準教授/東北大学准教授
「婚活マッチングアプリとデジタル倫理
ーブラックボックス化されたレコメンデーション機能と情動的自己決定権」

～16:05 平山幹子 関西学院大学教授
「プラットフォームと媒介者責任ー刑事法の観点から」

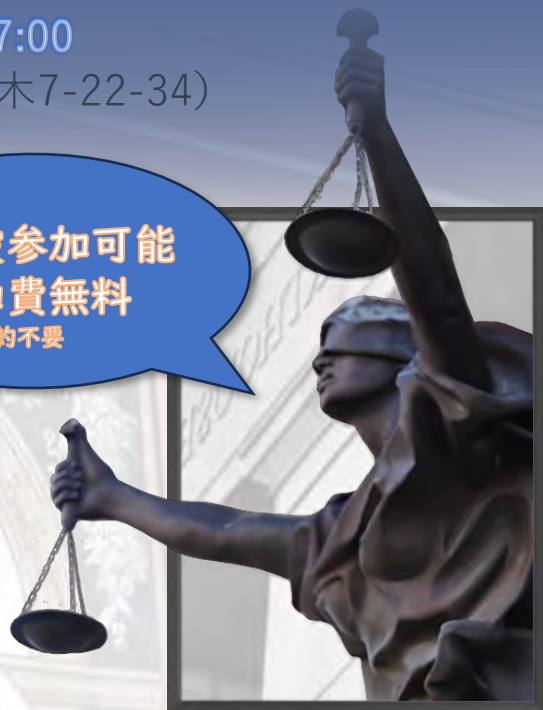
～16:20 佐藤義明 成蹊大学教授
「デジタル難民の発生を防止する義務ー国際法の観点から」

16:20 質疑応答

16:50 閉会の辞 田中教雄

熊本学園大学教授/九州大学名誉教授

✓一般参加可能
✓参加費無料
✓事前予約不要



主催：法学委員会・ICT社会と法分科会

後援：成蹊大学Society 5.0研究所

同志社大学デジタル法制研究センター、同志社大学法と社会政策研究センター

「デジタル取引における消費者の脆弱性を踏まえた保護の在り方に関する比較法的研究」（2026年度基盤研究(B)）、「デジタル化社会における多様化した消費者取引に対応した法制度についての比較法的研究」（2026年度基盤研究(C)）

「情報空間の秩序形成に向けたデジタル社会の再構築ーAI時代の法秩序構想」（2026年度基盤研究(B)）

「民事手続における『ユビキタス・アクセス権』の創造的構築に関する基礎研究」（2026年度萌芽研究）

公開シンポジウム
「日本の食文化を世界へ、そして未来へ
～飼料生産から食卓まで、和牛ブランドを支える技術革新～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会、公益社団法人日本畜産学会
2. 後 援：公益財団法人伊藤記念財団
3. 日 時：令和8（2026）年9月17日（木）14：30 ～ 17：30
4. 場 所：宮崎大学農学部（宮崎県宮崎市学園木花台西1-1）（ハイブリッド開催）
5. 一般参加：可能、参加費：無

6. 開催趣旨：

近年、畜産業を取り巻く環境は大きく変化しており、資源価格の高騰や環境負荷低減への要請、さらには国際市場における競争激化への対応が求められています。このような状況の中で、日本の畜産が持続的に発展していくためには、生産現場における効率化と高付加価値化を両立させる取り組みが不可欠です。特に飼料利用性の向上は、資源の有効活用や生産コストの低減のみならず、環境負荷の軽減にもつながる重要な課題です。近年では、スマート農業技術やゲノム育種技術の発展により、飼料効率を高める新たな可能性が広がっています。一方、和牛の国際展開は、単なる輸出拡大にとどまらず、各国・地域の食文化や生産環境に適応した新たな価値創出を通じて、「WAGYU」ブランドの国際的な確立と発展を目指す取り組みとして注目されています。

本シンポジウムでは、「持続可能な畜産」「ブランド戦略」「技術革新」をキーワードに、飼料生産から肥育、流通、消費までを俯瞰しながら、日本の食文化を代表する和牛ブランドを支える技術とその将来展望について議論します。飼料利用性の向上を世界市場で通用する和牛生産の基盤技術として位置付け、生産者、研究者、関連産業が連携して描く持続可能な畜産の未来像を共有する機会としたいと思います。

7. 次 第：

司会：井戸田 幸子（宮崎大学農学部教授）

14:30-14:35 開会の挨拶

菊地 和弘（日本学術会議連携会員／公益社団法人日本畜産学会理事長）

第1部：飼料利用性：持続可能な和牛生産を目指して

座長：西村 慶子（宮崎大学農学部准教授）

14:35「あなたの研究はどこで生きるか：畜産分野の政策課題と研究資金」

西尾 元秀（農林水産省技術会議事務局・畜産局畜産振興課研究専門官）

15:00「肉用牛の飼料利用性改良をめぐる研究動向と今後の展開」

竹田 将悠規（東北大学大学院農学研究科・農学部助教）

15:35「飼料資源の有効活用による持続可能な和牛生産」

神谷 充（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門上級研究員）

第2部：和牛の国際展開：世界市場に挑む日本の畜産

座長：河原 聡（宮崎大学農学部教授）

16:20「県産牛肉の販路拡大に向けた取組」

西 洋平（宮崎県農政水産部畜産局畜産振興課肉用牛振興担当主査）

16:45「枝肉画像解析による和牛肉質評価の高度化とブランド価値創出」

口田 圭吾（帯広畜産大学畜産学部教授）

17:20 閉会の挨拶

木村 直子（日本学術会議第二部会員／山形大学大学院農学研究科教授）

サーキュラー エコノミーの 実践のための 社会課題と学術課題



開催日 令和8年 **9月18日(金)** 13:30~17:40

本分科会が今期(第26期)にまとめた「意思の表出(報告)」を受けて、資源循環経済(サーキュラーエコノミー)を実装化するには、循環に適したモノづくり、循環することによる弊害の回避技術、製品を再生する大小さまざまな再生ループ技術の開発の一方で、環境・社会・経済的要因が最適化されるようなしくみづくりが欠かせない。実装化へのアプローチにおいて遭遇する社会課題および学術課題を、産官学のそれぞれの立場から拾い上げ、これらを克服するためのアプローチについて、現在発展目覚ましいデータサイエンスの手法も含めて紹介し、非資源国である我が国の持続的資源供給戦略を、立場を超えて議論する。

【参考】報告「サーキュラーエコノミーにおける資源循環を機能させるための学術課題」
<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/division-16.html>

会場 **日本学術会議講堂** 東京都港区六本木7-22-34

参加費無料

ハイブリッド開催

申込
締切

9月14日(月) 事前参加登録をお願いします。
<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0383.html>



主催 日本学術会議

共催 一般社団法人資源・素材学会、早稲田大学理工学術院総合研究所

後援 独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構、日本鉱業協会、石灰石鉱業協会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人日本工学会、一般社団法人環境資源工学会、一般財団法人カーボンフロンティア機構、資源地質学会、骨材資源工学会、公益社団法人日本金属学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人軽金属学会、公益社団法人日本化学会、早稲田大学循環バリューチェーンコンソーシアム、レアメタル研究会、日本LCA学会、環境経済・政策学会、株式会社産業新聞社、株式会社セメント新聞社、株式会社鉄鋼新聞社、株式会社日本碎石新聞社

企画 材料工学委員会、環境学委員会、総合工学委員会合同サーキュラーエコノミーのための資源・材料の循環利用検討分科会



サーキュラーエコノミーの実践のための 社会課題と学術課題



▶コーディネーター

笹木 圭子	(日本学術会議第三部会員、九州大学・名誉教授、早稲田大学理工学術院・教授)
森田 一樹	(日本学術会議第三部会員、日本製鉄株式会社・顧問、東京大学・名誉教授、大阪大学大学院工学研究科・特任教授)
岡部 徹	(日本学術会議連携会員、東京大学・執行役副学長)
松八重 一代	(日本学術会議連携会員、東北大学大学院環境科学研究科・教授)

▶司会

岡部 徹	(日本学術会議連携会員、東京大学・執行役副学長)
------	--------------------------

▶スケジュール

13:30 ~ 13:35	開会挨拶
	笹木 圭子 (日本学術会議第三部会員、九州大学・名誉教授、早稲田大学理工学術院・教授)
13:35 ~ 14:10	講演「サーキュラーエコノミーを後押しする市場経済に何が必要か？」
	青木 玲子 (日本学士院会員、一橋大学・名誉教授)
14:10 ~ 14:45	講演「成長戦略としての資源循環経済確立に向けた取組について」
	三牧 純一郎 (経済産業省 GX グループ資源循環経済課・課長)
14:45 ~ 14:50	休 憩
14:50 ~ 15:25	講演「日本製鉄における数理・データサイエンス・AI 活用事例」 ～サーキュラーエコノミーとの接点を考える～
	伊藤 邦春 (日本製鉄株式会社 情報システム部・部長)
15:25 ~ 16:00	講演「マルチメタルスマルティングの実践と課題」
	佐藤 重樹 (DOWA メタルマイン株式会社・代表取締役社長)
16:00 ~ 16:35	講演「循環エコシステムによるサーキュラーエコノミーの実現に向けて」
	梅田 靖 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科・教授)
16:35 ~ 17:35	総合討論
	ファシリテーター
	松八重 一代 (日本学術会議連携会員、東北大学大学院環境科学研究科・教授)
	パネリスト
	青木 玲子 (日本学士院会員、一橋大学・名誉教授)
	三牧 純一郎 (経済産業省 GX グループ資源循環経済課・課長)
	伊藤 邦春 (日本製鉄株式会社 情報システム部・部長)
	佐藤 重樹 (DOWA メタルマイン株式会社・代表取締役社長)
	梅田 靖 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科・教授)
17:35 ~ 17:40	閉会挨拶
	森田 一樹 (日本学術会議第三部会員、日本製鉄株式会社・顧問、東京大学・名誉教授、大阪大学大学院工学研究科・特任教授)
17:40	閉 会

2026
9/18 (金)
13:30~16:00

場所：愛媛大学南加記念ホール

会場定員/先着200名(オンライン同時開催)

関心のある方歓迎(参加費無料)

人口減少社会における 地方都市の 未来価値 -「縮充」という新しい地域モデル-

人口減少によって社会の縮小や地域構造の変容が進む中、地方都市の在り方が問い直されています。本シンポジウムでは、日本学術会議の2つの分科会からの報告を踏まえ、地域の持続可能性と未来価値について多様な視点から議論します。学術的な知見と現場の視点を交えながら、これからの地域の可能性を展望していきます。

◆ 開会挨拶と趣旨説明

仁科 弘重 (愛媛大学長/日本学術会議 連携会員 農学委員会 地域総合農学分科会 委員長)

◆ 報告 (13:45~)

「縮小社会を前提とした持続可能な国土・地域を構想するために」

中澤 高志 (日本学術会議 第一部会員 地域研究委員会 縮小社会の地域構想分科会 委員長/明治大学 経営学部 教授)

「多極分散型社会の実現に向けた農の役割」

武山 絵美 (日本学術会議 連携会員 農学委員会 地域総合農学分科会 幹事/愛媛大学 未来価値創造機構 副機構長)

◆ パネルディスカッション (15:00~)

「人口減少社会における地方都市のあり方をめぐって — 多様な立場から考える地域の可能性と実践 —」

〈パネリスト〉

- ・中澤 高志 (縮小社会の地域構想分科会 報告者)
- ・武山 絵美 (地域総合農学分科会 報告者)
- ・山本 貴之 (今治市 産業部 産業政策局 海事都市今治推進課 海事都市今治推進係長)
- ・山之内 崇 (いよぎん地域経済研究センター コンサルティング部 特任部長)
- ・大久保 武 (愛媛大学 未来価値創造機構 准教授)

〈モデレーター〉

- ・井口 梓 (日本学術会議 連携会員 地域研究委員会 縮小社会の地域構想分科会/愛媛大学 未来価値創造機構 副機構長)

◆ 閉会挨拶

山下 政克 (愛媛大学 未来価値創造機構長)

申込方法

参加ご希望の方は、次のURLまたは2次元コードを読み取り、申込フォームからお申し込みください。URL: <https://forms.cloud.microsoft/r/Vu0pwp9dqS>
(締切：2026年9月17日(木) 正午まで)



問合せ先

愛媛大学総務部学長室 メール:senryaku@stu.ehime-u.ac.jp 電話番号:089-927-9046

共同主催

日本学術会議 農学委員会 地域総合農学分科会
日本学術会議 地域研究委員会 縮小社会の地域構想分科会
愛媛大学 未来価値創造機構

後援

日本生物環境工学会、日本農業気象学会、日本農業経済学会、日本農業工学会、
公益社団法人農業農村工学会、農村計画学会、地理学連携機構、公益社団法人日本地理学会
人文地理学会、経済地理学会

公開シンポジウム

AI時代、 未来は誰にとって公平か？

—高校生と考えるジェンダー・マイノリティ・進路

2026. **9.19** (土) 13:00~16:30

オンライン開催 (zoom)

【参加費】

無料 (事前申込制)

【対 象】

高校生・保護者・教員・一般

【お申込】

要参加登録 (無料)、定員1,000名

裏面のQRコードまたはURLから、お申込みください

(申込締切：9月12日 (土)、定員になり次第締切)



主催

日本学術会議 第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会／科学者委員会 ジェンダー・エクイティ分科会／法学委員会 社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会／健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会

共催

早稲田大学規範科学総合研究所、北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部、科学技術振興機構 (JST)

後援

日本生命科学アカデミー、一般社団法人男女共同参画学協会連絡会、人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 (GEAHSS)、教育関連学会連絡協議会、日本学術振興会 (JSPS)、早稲田大学ダイバーシティ推進室

公開シンポジウム

AI時代、未来は誰にとって公平か？

—高校生と考えるジェンダー・マイノリティ・進路—

生成AIの急速な普及により、私たちの学びや進路選択、社会参加のあり方は大きく変化しつつあります。一方で、AIは既存社会の価値観や偏見を学習するため、ジェンダーやマイノリティに対するバイアスを再生産・増幅する可能性も指摘されています。とりわけ高校生の進路選択や教育現場において、AIが助言や意思決定に関わる機会が増えるなか、「公平な進路」とは何かを改めて問い直す必要があります。

本シンポジウムでは、AI社会を俯瞰する研究者、教育実践者、政策・ジェンダー研究の専門家とともに、高校生・教員を主な対象として、AI時代の公正さと市民教育のあり方について考えます。誰も取り残さない未来を実現するために、今私たちに求められる視点と行動を議論します。

■ お申込みはこちらから ■

右記QRコードまたは下記URLから、お申込みください。

申込締切：9月12日（土） ※定員になり次第締切

<https://forms.gle/SHLR3qbwPCJhZZ6F7>



プログラム

- 13:00 **開会挨拶**
樋田 京子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学研究科・教授）
- 13:05 **趣旨説明**
坂内 博子（日本学術会議連携会員／早稲田大学理工学術院・教授）
- **第一部 AI時代をどう生きる？－AIと公平性(fairness)を考える**
- 13:15 **AIは中立か？－進路を選ぶときのつきあい方－**
森田 久美子（NPO法人Waffle・ディレクター）
- 13:35 **質疑応答**
- 13:55 **（休憩）**
- **第二部 公正なキャリア形成に向けて－AI時代のバイアス**
- 14:10 **キャリア選択とステレオタイプ－公正な社会を実現する手段とは？**
三浦 まり（日本学術会議連携会員／上智大学大学院法学部・教授）
- 14:30 **AIは「公平」ではないが、その原因は私たちかもしれない**
－公平性(fairness)と社会のルールを考える
佐倉 統（実践女子大学人間社会学部・教授／東京大学・名誉教授）
- 14:50 **AI研究は誰がつくるのか？－ダイバーシティが公正な未来を左右する**
伊藤 貴之（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科・教授）
- 15:10 **（休憩）**
- **第三部 総合討論**
- 15:25 **AI時代に、公正な未来はつくれるか？－「自分らしい進路」を守るために**
モデレーター：來田 享子（日本学術会議連携会員／中京大学スポーツ科学部・教授）・坂内博子
登壇者：行木 陽子（中央大学商学部・特任教授／㈱足利銀行・社外取締役／㈱平和堂・社外取締役）
第一部、第二部の登壇者
- 16:25 **閉会挨拶**
竹山 春子（日本学術会議第二部会員／早稲田大学理工学術院・教授）

お問合せ

早稲田大学理工学術院 坂内博子

hiroko.bannai * waseda.jp （送信の際は * を@に変更してください。）

ビジネス人材のリカレント教育の現状と課題



令和8年9月19日（土） 13:30～16:30

📍 ハイブリッド開催：関西大学梅田キャンパス（大阪府大阪市北区鶴野町1-5）8Fホール

🔔 挨拶

- 🔔 13:30 開会の挨拶：森田 雅也（日本学術会議連携会員／関西大学社会学部教授）
共催の挨拶：西尾チヅル（経営関連学会協議会理事長／日本学術会議連携会員／筑波大学副学長）
後援の挨拶：高橋 智幸（関西大学学長）

① 第1部 セッション「大学が提供するビジネス人材のリカレント教育」

◇司会：櫻田涼子（日本学術会議連携会員／甲南大学経営学部教授）

- 🕒 13:40 趣旨説明：司会
🕒 13:45 報告1：「横浜国立大学のリカレント教育：YBSを中心として」
二神枝保（日本学術会議連携会員／横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授）
🕒 14:00 報告2：「神戸大学におけるリカレント教育の現状と課題」
上林憲雄（日本学術会議連携会員／神戸大学大学院経営学研究科教授）
🕒 14:15 報告3：「関西大学の社会人学び直し教育の現状と課題」
高屋定美（日本学術会議連携会員／関西大学商学部教授）
🕒 14:30 質疑応答とまとめ：司会

休憩（15分）（14:40～14:55）

② 第2部 パネルディスカッション「ビジネス人材のリカレント教育の課題、これから」

◇ファシリテーター：原 拓志（日本学術会議第一部会員／関西大学商学部教授）

- 🕒 14:55 趣旨説明：ファシリテーター
🕒 15:00 総合討論

👤 パネリスト：

- 👤 酒井香世子（損害保険ジャパン株式会社 専務執行役員 CCuO CSuO）
👤 辻村 明広（田辺ファーマ株式会社 代表取締役社長 執行役員 COO）
👤 廣田 雅美（大阪商工会議所人材開発部 大阪企業家ミュージアム シニアコーディネーター）
👤 内田 浩史（日本学術会議連携会員／神戸大学大学院経営学研究科教授）
👤 原 良憲（日本学術会議連携会員／大阪成蹊大学データサイエンス学部教授）
👤 二神 枝保（日本学術会議連携会員／横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授）

- 🔔 16:25 閉会の挨拶：森田雅也（日本学術会議連携会員／関西大学社会学部教授）

主催：日本学術会議経営学委員会 ビジネス人材のリカレント教育に関する分科会
共催：経営関連学会協議会 後援：関西大学

📄 要事前申込・参加無料

<https://forms.gle/ngjvTjTTvhr3VVAf9>



🗨️ こちらからもお申し込み可能です
参加登録期限：令和8年9月15日（火）

✉ 連絡先メールアドレス：recurrent.sympo2026@gmail.com

公開シンポジウム

「更なる劇的進化を続ける生成 AI の現状を理解しよう！」の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会、情報学委員会 IT の生む諸課題検討分科会
2. 共 催：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立情報学研究所
3. 後 援：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構、国立研究開発法人情報通信研究機構、一般社団法人情報処理学会、一般社団法人電子情報通信学会
4. 日 時：令和 8 年（2026 年）9 月 24 日（木）10：00～17：10
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

生成 AI は、学術、産業、教育、行政、医療・福祉、文化、日常生活に至るまで、社会のあらゆる領域に大きな影響を及ぼしつつある。日本学術会議では、これまで生成 AI に関するシンポジウムを 2 回開催し、いずれも高い反響を得た。そこで今回は、生成 AI の受容・活用をめぐる議論をさらに発展させ、「生成 AI のさらなる展開」をテーマとして公開シンポジウムを開催する。

最近、経済産業省はフィジカル AI（ロボット）を中心に約 3,500 億円の投下を発表した。その直前にはアンソロピックによるセキュリティホールを見つけ出すミトスが大きく報道された。更にその直前には、自動講義生成を強力に支援する Codex や Opus の発表が相次いだ、このように生成 AI のシンポはまさに日進月歩であることから、既に 2 回開催した経験をもとに、現状の生成 AI を多様な専門家から紹介し、理解を深めたいと考える次第である。

今日、生成 AI は、文章生成や情報検索支援にとどまらず、AI エージェント、AI 共同科学者、フィジカル AI、小型言語モデルなどへと展開し、研究、教育、産業、社会制度のあり方を大きく変えようとしている。一方で、思考能力の低下、AI リテラシー格差、専門職や教育現場におけるデジタル格差、知の蓄積の汚染、認知や意思決定への影響、労働や産業構造の変質といった課題も顕在化している。また、生成 AI の発展には、計算リソース、データセット、エネルギー、情報基盤の確保が不可欠であり、ソブリン AI の観点から、国家や地域が自律的に AI を開発・活用できる環境をどのように整備するかも重要な論点である。

本シンポジウムでは、生成 AI のさらなる展開を、技術、教育、産業、研究、法制度、

倫理、社会基盤の観点から多角的に検討し、人間社会と生成 AI の望ましい関係について議論する。

9. 次 第：

10:00 開会挨拶

10:10～11:50 第一部

11:50～13:20 休憩

13:20～15:00 第二部

15:00～15:20 休憩

15:20～17:00 パネル討論

17:00 閉会挨拶



脳と生成AI

日本学術会議公開シンポジウム・



第34回 脳の世紀シンポジウム

日時 2026年9月26日 ㊦ 10:00～16:00

会場 日本学術会議講堂
(東京都港区六本木 7-22-34 東京メトロ千代田線「乃木坂」駅下車 5番出口徒歩1分)
後日収録したものをオンデマンド配信予定

主催 日本学術会議 基礎医学委員会 神経科学分科会
臨床医学委員会 脳とところ分科会

共催 特定非営利活動法人脳の世紀推進会議
公益財団法人ブレインサイエンス振興財団
国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター

後援 日本脳科学関連学会連合 (協賛)

10:00～10:10 **開会挨拶** 柚崎 通介 (日本学術会議第二部会員／慶應義塾大学 ヒト生物学－微生物叢－量子計算研究センター 特任教授)
水澤 英洋 (脳の世紀推進会議 理事長／日本ゲノム医療推進機構 機構長／国立精神・神経医療研究センター 名誉理事長)

10:10～11:10 **特別講演「脳と人工知能－二つの知能システム」**
甘利 俊一 (帝京大学 先端総合研究機構 特任教授)
司会：川人 光男 (株式会社国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) 脳情報通信総合研究所長)

11:15～11:55 **「脳を知る」分野講演「脳の理解と生成AIの診断」**
渡部 喬光 (東京大学 ニューロインテリジェンス国際研究機構 教授)
司会：加藤 忠史 (日本学術会議連携会員／順天堂大学医学部 教授)

11:55～13:00 休憩
ビデオレター放映「高校生時に世界脳週間イベントあるいは脳科学オリンピックに参加した体験記」

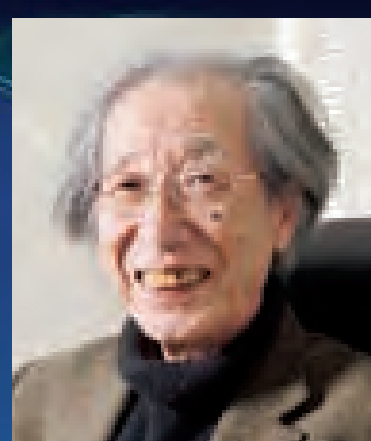
13:00～13:40 **「脳を守る」分野講演「神経発達症におけるメルトダウンの神経回路：脳を守る介入開発をめざして」**
林 (高木) 朗子 (日本学術会議連携会員／理化学研究所 脳神経科学研究センターチームディレクター)
司会：池田 和隆 (日本学術会議連携会員／東京都医学総合研究所 参事研究員／国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 部長)

13:40～14:20 **「脳を創る」分野講演「脳とAIの生成モデル：予測と行動の神経回路」**
銅谷 賢治 (沖縄科学技術大学院大学 神経計算ユニット 教授)
司会：藤山 文乃 (日本学術会議連携会員／北海道大学大学院医学研究院 教授)

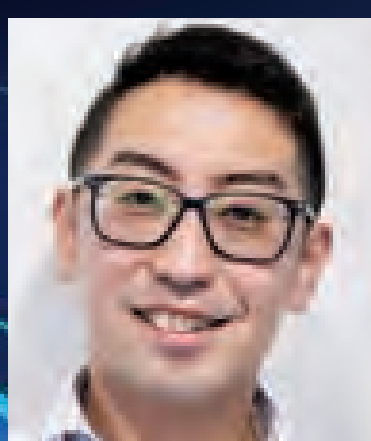
14:20～15:00 **「脳を育む」分野講演「脳・身体・環境が育む認知機能の発達と多様性」**
長井 志江 (東京大学 ニューロインテリジェンス国際研究機構 特任教授)
司会：吉峰 俊樹 (医療法人医誠会国際総合病院 名誉院長)

15:10～15:50 **パネルディスカッション**
モデレータ：伊佐 正 (日本学術会議連携会員／脳の世紀推進会議 副理事長／自然科学研究機構 生理学研究所 所長)
柚崎 通介 (日本学術会議第二部会員／慶應義塾大学 ヒト生物学－微生物叢－量子計算研究センター 特任教授)

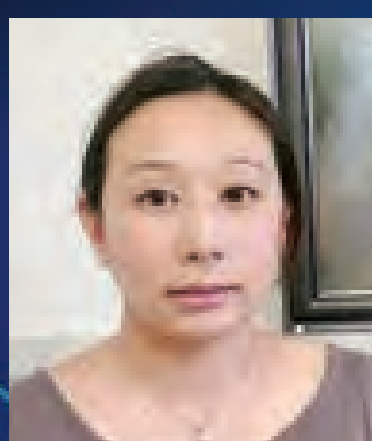
15:50～16:00 **閉会挨拶** 大隅 典子 (脳の世紀推進会議 副理事長／日本学術振興会 理事)



甘利 俊一



渡部 喬光



林 (高木) 朗子



銅谷 賢治



長井 志江

参加申込 開始8月5日 (水)～

右のQRよりホームページにアクセスし、フォームからお申し込みください。

申込み・お問合せ

脳の世紀推進会議事務局 (株)コナ・オフィス 内
TEL：080-9281-6902 E-mail：brain.konaoffice@gmail.com



公開シンポジウム「観光・科学・野生動物保全をつなぐ
—The Tourist Scientist Project の挑戦—」の開催について

1. 主 催：日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同ワイルドライフサイエンス分科会、環境学委員会環境政策・環境計画分科会、環境学委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会
2. 後 援：観光庁（調整中）
3. 日 時：令和8（2026）年9月26日（土）13:00～16:30
4. 場 所：東京大学農学部 中島董一郎記念ホール（東京都文京区弥生 1-1-1）
5. 一般参加：可、参加費：無
6. 開催趣旨：

近年、野生動物の保全は世界的な課題となっているが、保全活動に必要なデータや資金、人材は依然として不足している。一方で、国際観光は急速に回復し、世界各地の自然保護地域や野生動物生息地には多くの観光客が訪れている。これまで観光は自然環境への負荷として語られることも多かったが、近年では観光客自身が科学調査や保全活動に参加する「市民科学（Citizen Science）」の可能性が注目されている。

「ツーリスト・サイエンティスト・プロジェクト(The Tourist Scientist Project)」とは、観光客を単なる消費者ではなく、科学研究と自然保全の担い手として位置付ける新たな国際的取り組みのことである。このプロジェクトでは、観光客が旅行先で野生動物の観察記録を収集し、その情報を研究者や保全機関と共有することで、生物多様性のモニタリングや保全活動に貢献する仕組みの構築を目指している。また、地域住民、観光事業者、研究者、保全団体が連携し、観光と保全の両立を図る新たな社会システムの可能性を探っている。

本シンポジウムでは、ケニアにおいて野生動物保全と観光振興を両立させてきた実務家を招き、現場の経験と課題を共有するとともに、西アフリカにおける事例を交えながら、日本の観光と科学、そして野生動物保全を結びつける新たな枠組みについて議論する。観光客が科学と保全に参加する未来像を提示し、持続可能な観光と生物多様性保全の実現に向けた学際的な対話の場としたい。

7. 次 第：

13:00 開会挨拶・趣旨説明

松本 晶子（日本学術会議連携会員／琉球大学国際地域創造学部教授）

13:15 「OECMをめぐる国際的議論と地域の保全現場からの経験・教訓の共有」

香坂 玲（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13:35 「オルペジェタ保護区に学ぶ：ケニアが誇る、自然と地域を守る最先端モデル」

Prof. Geoffrey Wahungu (the Chief Conservation & Programs Officer at Ol Pejeta Conservancy)

14:15 「衛星データから見る野生動物と自然環境：市民参加による観察の可能性」

祖父江 侑紀（奈良女子大学理学部助教）

14:35 休憩（20分）

14:55 「Fサファリ観光から「自然の守り手」へ：ケニアが進める地域共生型の保護モデル」

Dr. Mohanjeet Brar (Managing Director of Gamewatchers Safaris and Porini Camps)

15:35 「ギニアの精霊の森におけるチンパンジー保全：野生動物保全の文化観光としての可能性」

山越 言（日本学術会議連携会員／京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）

15:55 総合討論「観光は野生動物保全に貢献できるか」

司会：松本 晶子（日本学術会議連携会員／琉球大学国際地域創造学部教授）

討論者：

大沼 あゆみ（日本学術会議連携会員／城西大学経済学部特任教授）、講演者全員

16:25 開会挨拶

香坂 玲（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

日本学術会議公開シンポジウム

「農学が創る未来：緑の革命3.0」

2026年9月26日(土)13時～

参加費無料

日本学術会議6A会議室[ハイブリッド開催]

【主催】日本学術会議農学委員会・食料科学委員会

【後援】一般社団法人日本農学会、公益財団法人農学会、日本農学アカデミー、日本昆虫科学連合、日本植物保護科学連合、農業経済学関連学会協議会、公益社団法人日本獣医師会、水産・海洋科学研究連絡協議会、農林水産省、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、国立研究開発法人国際農林水産業研究センター、国立研究開発法人森林研究・環境整備機構、国立研究開発法人水産研究・教育機構、全国農学系学部長会議、国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科

本シンポジウムでは、20世紀に急成長した人類の食を支えた農学の成果を確認するとともに、最先端科学で解明されつつある「生物資源」(作物、森林、家畜、海洋生物、藻類、微生物など)や「生態系サービス」(酸素供給、炭素固定、水循環、気候調節、土壌形成、遺伝資源、病虫害制御、作物の花粉媒介など)の実態と活用の可能性を紹介し、未来の農学が21世紀における地球環境と調和した次世代の食料システムの構築、バイオマテリアル利用、自然再興活動等をいかに進めうるかを展望する。そして、人類の生活圏、経済圏が再生可能なバイオリソースで支えられる領域の拡大を目指す真に持続可能で健康な社会へのトランスフォーメーション「緑の革命3.0」の構想づくり、さらに多様で分散型の社会を志向するパラダイムシフトや、人と自然との共生社会を実現する産業革新・創造の提案の意義にも言及する。あわせてそれらに係わる農学教育研究のあり方についても議論を行うこととする。

【プログラム】

司会：磯部 祥子(日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

13:00 開会挨拶

高山 弘太郎(日本学術会議第二部会員、豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授/愛媛大学大学院農学研究科教授)

■農学150年の成果と今後の展望(第一部)

13:10 第1報告「農学150年の振り返り」

中嶋 康博(日本学術会議第二部会員、日本栄養大学栄養学部教授)

■農学が創造する社会と産業に向けた課題(第二部)

13:30 第2報告「生産農学領域の課題」

下野 裕之(日本学術会議連携会員、岩手大学農学部教授・次世代アグリノバージョン研究センターセンター長)

13:50 第3報告「森林科学領域の課題」

伊藤 昭彦(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

14:10 第4報告「農業工学領域の課題」

後藤 英司(日本学術会議第二部会員、千葉大学大学院園芸学研究院特任教授)

14:30 第5報告「水産学領域の課題」

大越 和加(日本学術会議第二部会員、東北大学名誉教授)

14:50 第6報告「畜産学領域の課題」

後藤 貴文(日本学術会議連携会員、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授)

15:10 第7報告「獣医学領域の課題」

堀 正敏(日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

15:30 第8報告「農芸化学領域の課題」

千葉 一裕(日本学術会議連携会員、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構理事長)

《20分休憩》

■農学教育研究の未来(第三部)

16:10 第9報告「農研機構の挑戦」

中畝 良二(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構企画戦略本部長)

16:30 第10報告「農学教育の課題」

東原 和成(日本学術会議連携会員、全国農学系学部長会議会長、東京大学大学院農学生命科学研究科研究科長・教授)

16:50 総合討論

17:25 閉会挨拶

渡辺 京子(日本学術会議第二部会員、玉川大学農学部教授)



会場かオンラインかを登録いただきます。オンラインの場合、参加用URLをメールでお送りします。会場参加については、席数の関係でお断りする場合があることをご了承ください。

【問い合わせ】

東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコクーン

TEL: 03-5841-8882 / FAX: 03-5841-8883

mail: office@agc.a.u-tokyo.ac.jp

<https://www.agc.a.u-tokyo.ac.jp/wp/260926-1/>

日本学術会議近畿地区会議学術講演会
「サイエンスとアートが拓く新たな知
—教育・共創・デジタル技術の最前線—」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議近畿地区会議、京都大学
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年9月27日（日）13：00 ～ 17：00
5. 場 所：京都大学国際科学イノベーション棟 HORIBA シンポジウムホール
（京都府京都市左京区吉田本町）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

本サイエンスとアートの交錯が、教育、研究、表現、社会とのコミュニケーションのあり方を捉え直す契機として注目されている。両者が出会い、対話することによって、既存の専門分野の枠を越えた知の形成や、新たな教育・研究の可能性がひらかれつつある。また、デジタル技術の発展は、知識や文化資源の記録、可視化、共有、体験の方法を大きく変化させている。

本講演会では、サイエンス、アート、デザイン、デジタル技術に関わる多様な教育・研究・実践を取り上げる。新たな教育組織の展開、科学者とアーティストをはじめとする異分野間の対話と共創、文化資源や体験をひらくデジタル技術の可能性などを通じて、知がどのようにつくられ、共有され、社会や未来へとつながっていくのかを考える。そこから生まれる新たな知の可能性を探るとともに、サイエンスとアートの交錯から生まれる教育、研究、社会連携の今後のあり方を展望する。

9. 次 第：

開会挨拶

- 主催者代表 三枝 信子（日本学術会議副会長・第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所理事）
- 主催者代表 時任 宣博（京都大学副学長、京都大学学際融合教育研究推進センター長）

趣旨説明

- 中村 征樹（日本学術会議第一部会員、大阪大学全学教育推進機構教授）

講演

- 講演1 「好き」が未来を動かす
—京都橘大学デジタルメディア学部を目指す新しい学び—
大場 みち子（日本学術会議第三部会員、京都橘大学デジタルメディア学部教授・学部長）
- 講演2 立命館大学デザイン・アート学部の展開
赤間 亮（立命館大学デザイン・アート学部教授・学部長）
- 講演3 科学者とアーティストが交流するプラットフォーム
—ファンダメンタルズという試み—
坪井 あや（ファンダメンタルズ プログラム代表）
- 講演4 ファンダメンタルズの実践
—アーティストと科学者の共創から見えてきた異分野融合のヒント—
杉井 学（山口大学国際総合科学部教授）
岩泉 慧（京都芸術大学美術工芸学科准教授）
- 講演5 文化の記憶を未来へ。目指すのは「タイムマシーン」×「どこでもドア」
大井 将生（同志社大学文化情報学部准教授）
- 講演6 体験の共有と知の共創のためのバーチャルリアリティ
鳴海 拓志（東京大学大学院情報理工学系研究科教授）

講演者らによるパネルディスカッション

（コーディネーター：中村 征樹/ 矢野 桂司）

全体総括

- 矢野 桂司（日本学術会議第一部会員、立命館大学文学部教授）

総合司会

- 村山 美穂（日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授）

10. 関係部の承認の有無：科学者委員会

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

【サービス化社会における共創価値尺度】

■ 開催趣旨

日本学術会議の価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会（略称：サービス学分科会）では、2027年度に見解「サービス化社会における共創価値の尺度について」を発出すべく、議論を進めております。

サービス化社会とは、製品を売ることだけではなく、製品・データ・サービスズ（無形財としてのサービス）がネットワークを通じて、資源を統合し、提供者と利用者の区別なくともに価値を創り上げる活動が中心となる社会です。ここでは、生活者・企業団体・行政などが価値の創出に参加します。このような社会の変化を明確化・可視化する方向性を示すことが本見解の目的です。

本シンポジウムでは、サービス化社会を俯瞰し、共創によって産み出される価値を測る、可視化する、開示して共有することを目指した学界からの提言（見解）に向けた議論をご紹介します。さらに、サービスと関係する異分野の学術研究者、企業関係者、ポリシーメーカーを交えたパネルディスカッションを通じ、多角的な視点から議論を深めます。

是非ともご参加いただき、皆様からのご意見をいただきたく存じます。

開催概要

日 時 2026年9月27日(日)
13:00～15:30

場 所 明治大学駿河台キャンパス
グローバルフロント1F多目的室
(対面と遠隔配信のハイブリッド)

参加費 無料

定 員 160名

申込期限 2026年9月25日（金）
定員に達し次第受付終了

参加申し込み

以下のURLまたはQRコードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/zAhnA1C2BatBLZNr5>



※申込締切：
2026年9月25日（金）

主催・後援

主催：価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会

後援：（50音順）経営関連学会協議会 / サービス学会 / 日本感性工学会 / 日本消費者行動研究学会 / 日本マーケティング・サイエンス学会 / 明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科

PROGRAM

13:00 - 13:10

【開会挨拶】

13:10 - 14:10

【第1部】 見解：「サービス化社会における共創価値の尺度について」

◆『価値共創を基盤とするサービス化社会』

戸谷 圭子（日本学術会議第一部会員、明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科教授）

◆『共創価値の工学的測定方法の現状と社会実装に向けた提言』

持丸 正明（日本学術会議連携会員、産業技術総合研究所フェロー）

14:10 - 14:20

【休憩】

14:20 - 15:30

【第2部】 パネルディスカッション

モデレーター

持丸 正明（日本学術会議連携会員、産業技術総合研究所フェロー）

パネリスト

戸谷 圭子（日本学術会議第一部会員、明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科教授）

西村 訓弘（日本学術会議連携会員、三重大学大学院地域イノベーション学研究科教授・特命副学長（戦略企画担当）／宇都宮大学学術院教授・特命副学長）

和氣 純子（日本学術会議第一部会員、東京都立大学大学院人文科学研究科教授）

西川 奈緒（経済産業省 商務・サービスグループ サービス政策課長）

瀬木 英俊（ロート製薬株式会社 代表取締役社長）

会場アクセス

明治大学駿河台キャンパス グローバルフロント1F
多目的室

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1



- ・JR中央線・総武線「御茶ノ水駅」下車 徒歩約3分
- ・東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水駅」下車 徒歩約3分
- ・東京メトロ千代田線「新御茶ノ水駅」下車 徒歩約5分



お問い合わせ先

日本学術会議 サービス学分会イベント事務局

Email: M-service-symposium-scj-ml@aist.go.jp



日本学術会議 公開シンポジウム

フューチャー・アースの推進と連携：Future Earth Japan Report 2026 へ向けた学術的課題の個別・横断的な整理

日時：2026年9月27日（日）：13:00～16:00

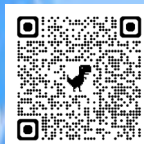
主催：日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会地球環境変化の人間側面分科会、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会SDGsの進捗評価分科会、環境学委員会・地球惑星科学委員会
合同FE・WCRP合同分科会

後援：フューチャー・アース日本委員会、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所（予定）

場所：オンライン開催（ZOOM）

申込：参加申込 をクリック、または右のQRコードから9月23日までにお申込みください。
定員 300 名、参加費無料、会議当日までに ZOOM の URL をお送りします。

問い合わせ：山下 潤（九州大学、scjhd2015@gmail.com）



人新世における複雑に絡み合った地球環境問題の解決に向けて、2015年にフューチャー・アースが本格始動し、10年が経過しました。本シンポジウムでは、日本における学術的課題を、専門性と学際性、長期的なビジョンと短期的な目標の設定、多様な社会との連携の可視化の視点から個別・横断的に整理し、2030年のSDGsの先とWell-beingを見据えた地球環境問題の解決について議論します。

総司会：近藤 康久（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授）

13:00～13:05 開会のあいさつ

沖 大幹（日本学術会議第三部会員／東京大学大学院工学系研究科教授）

【第1部】フューチャー・アースの成果

13:05～13:25 「専門性と学際性」

金谷 有剛（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境研究部門地球表層システム研究センターセンター長）

13:25～13:45 「長期的なビジョンだけではなく、短期的な目標の設定」

吉川 成美（日本学術会議連携会員（特任）／大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所上廣環境日本学センター・センター長・特任教授）

13:45～14:05 「多様な社会との連携の可視化」

山下 潤（日本学術会議連携会員／九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

【第2部】フューチャー・アースの展開

14:05～14:35 「フューチャー・アースの将来的課題」

安成 哲三（大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所顧問・名誉教授）

休憩 14:35～14:45

【第3部】パネルディスカッション

14:45～15:55

モデレーター：

谷口 真人（日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所教授）

パネリスト：

江守 正多（日本学術会議連携会員／東京大学未来ビジョン研究センター教授/国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域上級主席研究員）

金谷 有剛（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境研究部門地球表層システム研究センターセンター長）

蟹江 憲史（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授）

亀山 康子（日本学術会議連携会員／東京大学大学院新領域創成科学研究科付属サステナブル社会デザインセンター教授）

岸本 充生（日本学術会議連携会員／大阪大学D3センター教授/社会技術共創研究センター長）

安成 哲三（大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所顧問・名誉教授）

山下 潤（日本学術会議連携会員／九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

吉川 成美（日本学術会議連携会員（特任）／総合地球環境学研究所上廣環境日本学センター・センター長・特任教授）

15:55～16:00 閉会のあいさつ

浅利 美鈴（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授）

生命科学データの オープンな流通・活用の 再構築

— AI時代のデータ共有とガバナンスを考える —



参加
無料

2026年9月27日(日) 13:00~18:00

日本学術会議講堂 (東京都港区六本木7-22-34)

ZOOMによるオンライン同時開催



ゲノム、タンパク質構造、医療情報、バイオイメージングなど多様な生命科学データは、重要な研究基盤です。これらのオープンな流通・活用には、個人情報保護、国際的利益配分、産業競争力、データ維持問題など、新たな課題が生まれています。さらにAIの存在がこれらの課題を拡大し複雑化しています。本シンポジウムでは、現在、取りまとめている提言の議論を出発点に、AI時代にふさわしいデータ共有とガバナンスのあり方を、多様な立場から考えます。

スケジュール

- 13:00~13:05 開会挨拶・趣旨説明
諏訪 牧子 (連携会員/青山学院大学 理工学部)
- 13:05~13:25 特別講演①
倉田 佳奈江 (文部科学省 ライフサイエンス課課長)
- 13:25~14:00 特別講演②
相澤 彰子 (連携会員/情報・システム研究機構 国立情報学研究所)
AIエージェントと知識統合による
データの流通・活用
- 14:10~15:40 第一部
- 15:45~17:15 第二部
- 17:25~18:00 パネルディスカッション
パネリスト: 講演者全員
- 18:00~18:05 閉会挨拶
上田 昌宏 (連携会員/大阪大学
大学院生命機能研究科)

※時間は目安です。進行により前後する場合があります。

第一部 14:10~15:40 — 多様な生命データのケーススタディ —



社会インフラとしてのバイオバンクにおける
データガバナンスの現状と課題

木下 賢吾
東北大学
情報科学研究科



生物資源の現状とあるべき姿、
特にDSI問題について

鈴木 暁昭
特任連携会員/情報・システム研究機構
国立遺伝学研究所



メタゲノムデータの価値と
産業利用の未来

山田 拓司
東京科学大学 生命工学部 /
(株) メタジェン

第二部 15:45~17:15 — データの流通・活用を支える技術基盤 —



タンパク質構造データの
オープンな利活用維持と今後の課題

栗栖 源嗣
大阪大学 蛋白質研究所



バイオイメージングデータの
オープン化への現状と今後の在り方

永井 健治
連携会員/大阪大学
産業科学研究所



AIに対応するデータベースの在り方と
データ統合・解析基盤の技術開発

片山 俊明
情報・システム研究機構
国立遺伝学研究所

17:25~18:00 パネルディスカッション パネリスト: 講演者全員

主催

統合生物学委員会・基礎生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・
情報学委員会・バイオインフォマティクス分科会・生物物理分科会・IUPAB分科会・
遺伝資源分科会・ゲノム科学分科会

世話人

諏訪 牧子 (青山学院大学 理工学部) 上田 昌宏 (大阪大学 大学院生命機能研究科)
有田 正規 (大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所)

参加無料

最新情報・参加申込はこちら



公認心理師の 国家的活用の在り方

～ 職域の拡大と技量向上の責務 ～

公認心理師法附則第5条に基づく対応に対する
現状と課題を検討します

日 時

2026年 9 月 27 日 (日)
13:15 ～ 15:15

会 場

サンシャインシティ 会議室
第7会場

東京都豊島区東池袋3-1 サンシャインシティ文化会館ビル5F
特別ホール501号室

主催

日本学術会議 心理学・教育学委員会・社会学委員会・法学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同
心身の健康・適応に対する心理学的支援分科会



保健・医療



福祉



教育



司法・犯罪



産業・労働

登壇者

企画趣旨

嶋田 洋徳

日本学術会議 第一部会員
(一社)日本認知・行動療法学会 理事
早稲田大学人間科学学術院 教授

司会

佐藤 徳

日本学術会議 連携会員
富山大学人文学部 教授

田上 明日香 (産業・労働分野)

早稲田大学人間科学学術院 准教授

話題提供

熊野 宏昭 (保健医療分野)

日本学術会議 連携会員
早稲田大学人間科学学術院 教授

下山 真衣 (福祉分野)

信州大学学術研究院教育学系 准教授

古川 洋和

鳴門教育大学大学院心理臨床コース 准教授
公認心理師養成大学教員連絡協議会 事務局長

金子 周平

日本心理学諸学会連合 副理事長
九州大学大学院人間環境学研究院 准教授

指定討論

戸ヶ崎 泰子 (教育分野)

(一社)日本認知・行動療法学会 副理事長
宮崎大学大学院教育学研究科 教授

浅野 倫子

東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

フロア参加者

佐々木 淳 (日本学術会議 連携会員 / 大阪大学大学院人間科学研究科 教授)

西中 宏吏 ((一社)日本認知・行動療法学会 公認心理師対応委員会 / 早稲田大学人間科学学術院 講師) (司法・犯罪分野)

主催

日本学術会議

心理学・教育学委員会・社会学委員会・法学委員会・
臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同
心身の健康・適応に対する心理学的支援分科会

共催

一般社団法人

日本認知・行動療法学会



最新情報・詳細は
こちら

心理の専門性を、社会のあらゆる場へ。



現代社会における多様なリスクに対処する 法とガバナンスのあり方

日時:令和8年9月28日(月)13:00~17:30

会場:日本学術会議講堂

東京都港区六本木7-22-34

オンラインとのハイブリッド開催

- ✓ 一般参加可能
- ✓ 参加費無料
- ✓ 事前申込み要
(下記参照)



〔プログラム〕

総合司会

川和功子 (日本学術会議連携会員、同志社大学法学部教授)

13:00 挨拶

川嶋 四郎 (日本学術会議第一部会員、同志社大学法学部教授)

13:05 「リスク社会と民主主義」

中山 竜一 (日本学術会議連携会員、大阪大学大学院法学研究科教授)

13:25 「現代社会が抱える様々なリスクとそれに対する対応
—環境リスクへの対応を中心として」

大塚 直 (日本学術会議第一部会員、早稲田大学法学学術院教授)

13:50 「デジタル化に伴うリスクと対応」

千葉 恵美子 (日本学術会議連携会員、大阪大学大学院招聘教授)

14:15 コメント

落合 孝文 (弁護士、渥美坂井法律事務所・外国法共同事業シニア・パートナー)

14:35 質疑応答

14:40 休憩 (15分間)

14:55 「感染症リスクと対応」

米村滋人 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授)

15:20 コメント

関なおみ (感染症危機管理研究センター危機管理総括部長)

15:40 質疑応答

15:45 「地方での人口減少リスク、気候変動災害リスクと対応」

山下竜一 (日本学術会議連携会員、専修大学法学部教授)

亘理格 (日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授)

16:10 コメント

内海麻利 (駒澤大学法学部教授)

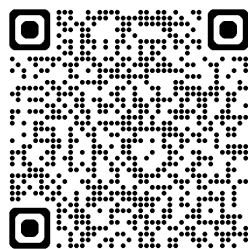
16:30 質疑応答

16:35 質疑応答・ディスカッション (報告者全員参加)

17:05 「総括的コメント、閉会挨拶」

大塚 直 (日本学術会議第一部会員、早稲田大学法学学術院教授)

▼参加はこちら▼



お申し込み

申込締切:令和8年9月23日

<https://forms.gle/Dhzj9ALQ3uZmh4uQ6>

主催

日本学術会議、法学委員会リスク社会と法分科会、環境学委員会環境政策・環境計画分科会

公開シンポジウム「環境問題の解決と持続的水産業の両立を目指すブルーエコノミー
ー気候変動対策を組み込んだ新たな水産業への科学的貢献を探るー」の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会水産学分科会、生物学委員会・統合生物学委員会合同海洋生物学
分科会
2. 共 催：水産・海洋科学研究連絡協議会、他
3. 後 援：一般社団法人大日本水産会、他
4. 日 時：令和8（2026）年9月30日（水）13：00 ～ 17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加：可、参加費：無
8. 開催趣旨：

水産業は重要な食料生産活動であるにもかかわらず、環境科学の分野では海洋での環境問題を引き起こすネガティブ要素の一つとして考えられてきた。それが近年では、ブルーカーボンの普及など、近年の環境へ配慮した水産業の取組が社会での認識を変えつつある。喫緊の課題である温暖化対策・生物多様性保全に対する水産業の貢献が注目を浴び、世界中で食料生産と気候変動対策の両軸性への期待が高まりつつある。

日本学術会議食料科学委員会水産学分科会は、2022年に「水産からカーボンニュートラルの未来を展望する」とのタイトルでシンポジウムを開催し、海草・海藻藻場による二酸化炭素貯留量算定技術の進捗状況、世界で拡大する海藻養殖の事例報告、始まったばかりのカーボンクレジット制度の動向、カーボンフットプリント算定等の議論を行った。その後、海外では海藻養殖の更なる拡大とともに非食用利用の市場が構築されつつあり、国内では海草・海藻藻場が2024年4月、我が国の温室効果ガスインベントリに正式に登録された。また、2025年2月に閣議決定された新たな温暖化対策計画では、2050年カーボンニュートラルに向けて農林水産業における二酸化炭素吸収量の数値目標が掲げられた。海洋・ブルーカーボンでは2035年に100万トン、2040年に200万トンと目標値が具体化し、この達成には海藻養殖や沖合での大規模海藻育成による吸収源拡大も視野に入れた活動が必要とされている。そのため、これらの活動による既存の水産業への影響把握も含め、新しい脱炭素型水産業の構築は待ったなしの段階に進みつつある。

そこで本シンポジウムでは、ブルーカーボン分野の最近の研究進展と社会実装の動向、見えてきた問題点等を確認するとともに、脱炭素・循環型社会の推進において、今後生じる水産業への期待や社会的課題について整理し、科学が果たすべき貢献について議論する。

9. 次 第：

司会：脇田 和美（日本学術会議連携会員／東海大学）

13:00 開会の挨拶：大越 和加（日本学術会議第二部会員／東北大学）

13:05 趣旨説明「温暖化対策と水産業成長化の架け橋となるブルーカーボン」
堀 正和（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人水産研究・教育機構）

話題提供

座長：堀 正和（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人水産研究・教育機構）

13:20 「計測算定技術・カーボンクレジット制度の進展と動向」

桑江 朝比呂（国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究）

14:00 「他分野企業と水産業との連携によるブルーカーボン活用の取り組みと課題 その1：藻場再生・拡大の現場から」

小杉 知佳（日本製鉄株式会社）

14:25 「他分野企業と水産業との連携によるブルーカーボン活用の取り組みと課題 その2：海藻養殖の現場と拡大に向けて」

山下 哲也（トヨタ自動車株式会社）

14:50 「社会普及の動向と課題：日本のマスメディアは、誰にどう伝えているか」

榊 太一（同志社大学ハリス理化学研究所）

15:15 休憩（10分）

総合討論「温暖化対策と水産業成長化の両立を実現していくために」

15:25 ファシリテーター：牧野 光琢（東京大学）

パネリスト：話題提供者

芳野 正（国立研究開発法人水産研究・教育機構）、伊藤 進一（東京大学大気海洋研究所）、

東海 正（日本学術会議連携会員／東京海洋大学）、八木 信行（同連携会員／東京大学特命教授室）、

脇田 和美（同連携会員／東海大学海洋学部）、原田 尚美（同連携会員／東京大学大気海洋研究所）

16:55 閉会の挨拶：古谷 研（日本学術会議連携会員／東京大学名誉教授）